

蔵出しお宝ニュース

— 第 13 号 —

三原市歴史民俗資料館では、本年度より所蔵資料の本格的な整理・展示のリニューアルに取り組んでいます。本紙では、資料館内で長らく眠っていた三原市ゆかりの貴重な資料の解説と、行事の案内・紹介などを随時行って参りたいと思っております。

三原ゆかりの書画作品 見つかる

昨年末から、小品の資料を収蔵した戸棚の整理にかかりました。その中から、三原と大変ゆかりのある人物の筆による書画作品が数点見つかりました。



佛通寺代管長・香川寛量筆

弄花香満衣

(はな^{はな}を^{ろう}弄すれば^{かお}香り^{ころも}衣に^み満つ)

具体的には、松浜港開港に尽力した宇都宮龍山筆の七言絶句、広島藩年寄職を務めた沢三石筆の七言絶句、佛通寺初代管長・香川寛量筆の一行書、広島藩主浅野家と親戚になる浅野静洲筆の山水画賛、江木鰐水筆の七言絶句、三原の学政に尽くし、維新後は広島にある修道館の教授となった吉村斐山筆の七言絶句、尾道の女流画家・平田玉蘊筆の亀の図、明善堂の塾長を務めた石井豊洲が賛をし、南海が描いた梅の図、三原浅野家の家臣で和歌国学に精通した鈴木直徳筆の和歌、三原に小学校教員養成所を創立し、三原女子師範学校創立にも尽力した沼田香雪筆の漢詩、明善堂の助教授であった長谷川桜南筆の漢詩、田野浦にある雙照院の住職で、田能村直入の弟子でもあった村上一笑筆の山水画賛などです。

作品はすべて戦後に表装を改めており、状態が大変良好です。現在は床のない建築が多くなり、家に四季折々の軸を掛けるという文化が薄れつつあるように思いますが、壁や衝立などを工夫して軸を掛けて鑑賞すると心が和むものです。

この一連資料を活用して書画展も今後計画できればと思っています。

本市出土 木造卒塔婆を確認

表紙面記載の掛軸が仕舞われていた戸棚に収められていた木造卒塔婆を確認しました。職員の中で、木造卒塔婆は戸棚の中に保管してあると引継ぎはしてありましたが、戸棚の前に他の資料を置いていたため、戸棚は長らく開けられていませんでした。この度ようやく戸棚の整理にかかり、久方ぶりに日の目を見ました。



本資料は、昭和 52（1977）年 9 月、道路拡張のため本市の田を掘っていたところ、地下約 2 メートルの位置から出土しました。上端を欠損し、中心のあたりで 2 つに折れ、折れた上部は土圧のため大きく弓状に曲がっています。下端は地上に突き立てるために細く削られています。「椿 右志趣者爲法界衆生也 永正十三年 八月廿四日 敬白」と表に書かれています。昭和 54（1979）年に発行された『三原市の石造物』にも記載されています。永正 13（1516）年の墨書があり、中世の沼田文化の一端を伝える貴重な資料です。



（左）箱に収まっている状態

（上）繋ぎあわせた様子

おき どこ しゅん じゅう
置 床 春 秋



掛物 ひらた ぎょくおん
平田 玉蘊 筆
亀の図

（平田玉蘊が元旦に試し書きした作品です。）

花入 瓢箪

花 季のもの

発行 平成 25 年（2013） 1 月 18 日

〒723-0015 三原市円一町 2 丁目 3-2

（三原市立中央図書館北隣）TEL 0848-62-5595

三原市歴史民俗資料館

※本冊子に掲載の写真などは、許可なく転用なされないようお願い申し上げます。